

www.jwing.net
mail@jwing.net



ラテンアメリカ特集 2017

LATIN AMERICA SPECIAL 2017



ラテンアメリカ2018年 注目の旅行素材



直行便の開設や新たなルートなど、アクセスの拡充でこれまで以上に行きやすくなったラテンアメリカ。ラテンアメリカには個性あふれる国々が集まっており、それぞれユニークな旅行素材で訪れる人達を楽しませてくれる。日本マーケットではまだまだ紹介しきれない、2018年注目のラテンアメリカ各国の魅力を紹介したい。

1 メキシコ Mexico



メキシコのお盆『死者の日』シーズン

2018年3月に日本で公開されるディズニー・ピクサー映画最新作『リメンバー・ミー』は、メキシコのお盆『死者の日』(10/31~11/2)が題材！メキシコでは10月中旬から『死者の日』シーズンに入り、映画の世界観を体感できる。例えば、写真はメキシコシティで昨年からのスタートした『死者の日』パレード。映画をきっかけに、メキシコに興味を持つ人はより一層増えるはず。今後ぜひ注目したい旅行素材だ。



© CDMX Mexico City



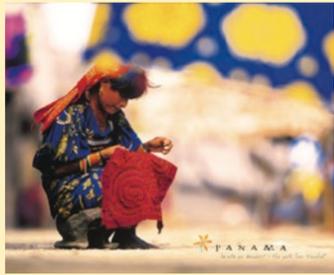
© CDMX Mexico City

2 パナマ Panama



サン・ブラス諸島

カリブ海に浮かぶサン・ブラス諸島は、輝く白砂と美しいコバルトブルーの海が特徴。360もの小島からなる諸島で、それぞれの島にはグナ族と呼ばれる先住民族が居住している。グナ族の女性は、「モラ(Mola)」と呼ばれる伝統手芸を施した民族衣装を身にまとい、現在もなお、伝統を基調とした生活を続けている。昨今、モラはアートとしても世界的にも注目を集めている。サン・ブラス諸島にて、美しい海に囲まれ、先住民族に触れる体験をしてみたい？



© Autoridad de Turismo de Panama/パナマ観光庁



© Autoridad de Turismo de Panama/パナマ観光庁

3 コロンビア Colombia



チカモチャ・キャニオンとコロニアルな街バリチャラ

コロンビアといえば何と言っても薫り高いコーヒーが有名だが、世界遺産のコーヒー産地の文化的景観を楽しんだ後は、コロンビアのグランド・キャニオンを訪ねてみてはいかがだろうか。サンタンデール県にあるチカモチャ国立公園では、ケーブルカーに乗って、絶景を空中から眺めたり、ハイキングやジップラインを楽しんだりできる。ここまで来たら、コロニアル建築と石畳で雰囲気満点の街、バリチャラもお忘れなく！



チカモチャ・キャニオン



バリチャラ

ラテンアメリカ

Latin America

4 ペルー Peru

見どころ盛りだくさん!
ティティカカ湖とプーノ

ティティカカ湖畔の町プーノへは、リマから空路で、クスコからは飛行機か列車でアクセスが可能。標高4000m近くにあるティティカカ湖では、浮島のウロス島や、世界遺産のタキレ島などへの観光が人気。シユスタニ遺跡では、プレ・インカからインカ時代の巨石墓跡が見られる。プーノからは、アレキパへのアクセスもよく、列車および陸路でアクセスでき、途中には、野生のコンドルが観察できるコルカ渓谷やピクーニャの保護区がある。



ティティカカ湖 © PROMPERU ペルー政府観光庁



クスコから豪華寝台列車「ベルモンド アンデアン・エクスプローラー」でティティカカ湖へ © PROMPERU ペルー政府観光庁

5 ブラジル Brazil

シャパーダ・ジアマンチーナ国立公園の
雄大な大自然

北東部バイーア州の内陸に広がり、かつてはダイヤモンドの採掘で栄えたエリア。卓上台地が連なるダイナミックな風景は、まさに大自然の偉大さを物語る。台地の上から流れ落ちる滝、そして雨風の侵食や風化によって形成された洞窟には、真っ青な水をたたえた神秘的な光景が広がる。トレッキングや洞窟でのシュノーケリングなど、楽しみ方はいろいろ。圧倒的な大自然をまるごと感じてみたい。



© EMBRATUR



© EMBRATUR

6 チリ Chile



絶景の宝庫、チリ北部アタカマ

チリ北部に位置するアタカマは、世界でも最も乾燥したエリアのひとつで、澄み切った空気のお陰で壮大な星空を堪能することができる。サンペドロの街を起点として、雄大な間欠泉、豪華な色彩で知られるラグーン、広大な塩原、あたたかも月面を思わせる月の谷など、この地域の豊富な観光スポットを探索することができる。



標高4000mを超える場所にあるミスカンティ湖



月の谷

7 パラグアイ Paraguay



イグアス市で日系移民の足跡を知る

日本人観光客に人気の世界遺産イグアスの滝に近く、1961年に日本からの最後の移民を受け入れた町として知られる。現在は市の人口1万5000人のうち9%が日系人で、約300家族が暮らしている。市内には日系移民ゆかりの品を展示する移住博物館や、移住地のシンボルとして鳥居の立つアミスタ公園、パラグアイで唯一のお寺(拓恩寺)などがあり、来年には先住民族のグアラニー族の生活を体験できる博物館がオープンする予定だ。



アミスタ公園 © イグアス観光協会



拓恩寺 © イグアス観光協会

8 アルゼンチン Argentine

北部の絶景、
世界遺産ウマワカ渓谷と「雲の列車」

今注目のアルゼンチン北部は絶景の宝庫。世界遺産にも指定されているウマワカ渓谷は、180km続く大渓谷で、7色の色もつ丘や、富士山より高いところにあるにもかかわらず、乗用車で訪れることのできる14色の山脈など、圧巻の絶景が続く。また、4120mまで登りつめる「雲の列車」や塩湖など、ほかにも絶景が楽しめるスポットがいっぱい。直行便の就航で、ペルー経由でのアクセスも可能だ。



ウマワカ渓谷



「雲の列車」 © INPROTUR

9 ウルグアイ Uruguay



世界遺産フライ・ベントス

アルゼンチンとの国境を流れるウルグアイ川左岸、アルゼンチンのブエノスアイレスから276km、首都モンテビデオからは310kmに位置。ここにある食肉加工工場を中心とするエリアが2015年に「フライ・ベントスの文化・産業的景観」として世界遺産に登録された。20世紀初頭にコンビーフの製造工場として栄え、当時は世界中に輸出されていたという。当時の足跡を訪ねるガイドツアーがある。2011年の東日本大震災の救援物資として、このコンビーフが送られたことも。



© Corredor de los Pájaros Pintados



© Corredor de los Pájaros Pintados

南米はカンタス航空で 身体にやさしい「南回りルート」



日本とオーストラリアを結ぶカンタス航空。同社はシドニーからチリのサンティアゴまで運航しており、シドニー経由で日本から南米へ行くことが可能だ。日本とオーストラリアの間には時差が少ないため、この「南回りルート」は、身体的な負担が少ないと評判だ。新たな南米へのルートとして、カンタス航空の南回りルートを紹介したい。

羽田、関西からシドニー経由で スムーズな乗り継ぎ、ビザも不要

カンタス航空の南回りルートは、羽田-シドニー線(毎日1便)とシドニー-サンティアゴ線(週4便)を乗り継ぐもの。羽田発はシドニーで約3時間、サンティアゴ発はシドニーで約4時間の乗り継ぎとスムーズで、8時間未満の乗り継ぎの場合は、オーストラリアへの入国の必要はなく、日本人はビザが不要だ。12月14日からは、関西-シドニー線を週3便で就航、関西からもシドニー経由で南米へアクセスできるようになる。な

お、復路でシドニーに1泊する際は、オーストラリア入国となるので、ビザを取得する必要がある。

また、シドニー-サンティアゴ間は、ラタム航空運航のコードシェア便(オークランド経由、毎日1便)を使った乗り継ぎも可能。10月5日からは、ラタム航空がメルボルン-サンティアゴ線を週3便で就航、カンタス航空の成田-メルボルン線との組み合わせもできるようになった。

「プレミアム・エアライン」ならではの 高品質なサービス

カンタス航空の羽田-シドニー線と、シドニー-サンティアゴ線は、共にB747-400型機で運航。機材は、ビジネスクラス58席とプレミアム・エコノミー36席、エコノミークラス270席の仕様で、ゆとりのある座席のプレミアム・エコノミーを両フライトで利用できる。

また、関西-シドニー線はA330-300型機で運航。こちらはビジネスクラス28席と、エコノミークラス269席の仕様だ。



羽田-シドニー線、シドニー-サンティアゴ線の運航機材B747-400型機

日本-南米間 運航スケジュール (2018年3月25日まで)

便名	出発	出発時間	到着時間	到着	運航曜日
QF26	羽田	22:00	9:35 +1	シドニー	毎日
QF34	関西	18:55	6:45 +1		木・土
12/14より就航		22:50	10:40 +1	月	

便名	出発	出発時間	到着時間	到着	運航曜日
QF321 ¹	シドニー	11:10	13:25	サンティアゴ	毎日
QF27		12:50	11:10		火・水・金・日

便名	出発	出発時間	到着時間	到着	運航曜日
QF322 ¹	サンティアゴ	0:25	9:15 +1	シドニー	毎日
QF28		13:35	17:40 +1		火・水・金・日

便名	出発	出発時間	到着時間	到着	運航曜日
QF25	シドニー	21:35	5:00 +1	羽田	毎日
QF33		9:30	17:25		木・土
12/14より就航		13:25	21:20	関西	月

2017年11月16日現在。スケジュールは予告なしに変更する場合があります。
*1 ラタム航空運航によるコードシェア便(オークランド経由)

ビジネスクラス

Business

ハイグレードなサービス

「オーストラリアらしさ」にこだわり

質の高いサービスで定評のあるカンタス航空のビジネスクラスは、まさにビジネスパーソンにふさわしいプロダクト。シートはフルフラットにリクライニングし、マットレスと羽毛布団をセットアップすれば、広々としたベッド空間に様変わり。快適な睡眠を演出するパジャマやアメニティーキットに、オーストラリア人デザイナーを起用するなど、「オーストラリアらしさ」にこだわりを見せる。

機内食メニューを監修するのは、人気オーストラリア人シェフのニール・ペリー氏。世界各地の料理のエッセンスを

取り入れ、新鮮な食材にこだわった「モダン・オーストラリア料理」が味わえる。日本からのフライトは夜発となるので、希望の時間にサービス、エクスプレスミールもあるほか、食事を取らずにゆっくりと睡眠をとることもできる。

ほかにも、機内エンターテインメントが楽しめる大型のモニターやアダプタ不要のAC電源を搭載。空港ラウンジの利用や専用チェックインカウンター、優先搭乗や手荷物の優先受け取りなど、出発前から到着後まで、充実のサービスを受けられる。

プレミアム・エコノミー

Premium Economy

ワンランク上のグレード

プレミアム・エコノミーだけのサービスが充実

エコノミークラスよりもひとまわり大きな快適なシートで、他社にはない専用サービスが充実。機内食は、エコノミー

クラスとは異なる専用のメニューをサービス。ビジネスクラス同様、ニール・ペリー氏監修で、和食もラインナップ。離陸前にはスパークリングワインを含むウェルカムドリンクのサービスもある。

ほかにも、優先チェックインや優先搭乗、離陸前の上着の預かりサービス、アメニティーキット、大型の枕とブランケットも用意。また各シートにはAC電源を搭載、アダプタ不要でスマートフォンやタブレットの充電ができる。



機内食の一例。ビジネスクラス同様、日本路線では和風のメニュー(右)も用意



機内で快適にくつろげるパジャマ



オーストラリアの新進気鋭のアーティストたちがデザインしたアメニティーキット



機内食の一例。日本路線では和風のメニュー(右)も用意

専任ソムリエが

オーストラリアのワインを厳選

世界的にも有名なオーストラリアのワイン。カンタス航空は、オーストラリアを代表するレストラン、ロックプール・グループのソムリエとバーテンダーによる総勢16名の「カンタス・ロックプール・ソムリエ」を結成、同ソムリエチームが機内及び空港ラウンジで提供するワインやシャンパン、スピリッツなどの飲み物全般の選定を行っている。

毎年1200種ものオーストラリア・ワインとシャンパンからセレクト。一部のフレ



ンチシャンパンとニュージーランド産ワインを除き、厳選したオーストラリア・ワインをサービスする。また客室乗務員も上級ソムリエ研修をはじめとする研修を受講、ワインの知識を深めている。



カンタス航空 日本就航70周年



南米へ行くなら、カンタス航空。

カンタス航空なら、シドニー-サンティアゴ便で南米各都市へのアクセスがスムーズ。
 シドニーへは羽田から毎日運航*1。関西からも2017年12月14日より直行便が就航*2。
 南回りで行く南米旅行は、カンタス航空で。

詳しくは qantas.com または旅行会社へ



*1 スケジュールは予告なく変更になる場合があります。 *2 週3便の運航となります。

高い注目度が際立つ「世界遺産」と「自然」

ラテンアメリカ意識調査

ラタム航空グループ(ラタム航空)は、旅行会社やツアーオペレーターを対象に実施した南米旅行のトレンドについての意識調査の結果を発表した。この調査は「第3回ラタム南米スペシャリストセミナー」の参加者55名を対象に実施。根強い人気を誇る世界遺産や南米にしかない自然に多くの回答が集まり、回答から今後の南米旅行のトレンドが読み取ることができる。

「世界遺産」がトップに フォトジェニックな「自然」も

ラタム航空が2015年から年1回のペースで開催する「ラタム南米スペシャリストセミナー」は、旅行会社とツアーオペレーターを対象に、南米各地における旅行関連の最新情報の提供を目的に行われている。1回目では、ブラジル、チリ、ペルーを、2回目では、アルゼンチン、コロンビア、エクアドルを紹介。3回目となる今年、ペルー、パラグアイ、チリの3カ国に焦点を当てたプレゼンテーションを行った。

調査結果を見ると、日本人旅行者が現在南米で注目している素材として、最も回答が多かったのは「世界遺産」(46%)だった。「世界遺産」は昨年の調査では28%だったが、これを大きく上回った理由としては、メディアへの露出や日本人の世界遺産志向、日本ではできない体験といった点が挙げられた。

高まる「文化」への注目度 多彩な商品ラインナップがカギ

一方、南米の旅行商品を造成する際に必要な情報として、最も回答が多かったのは昨年に引き続き「自然」(20%)だった。これは今後のトレンドになりそうなデスティネーションとしてチリが挙げられ、とりわけチリの大自然に注目が集まっていることと関連していると考えられる。

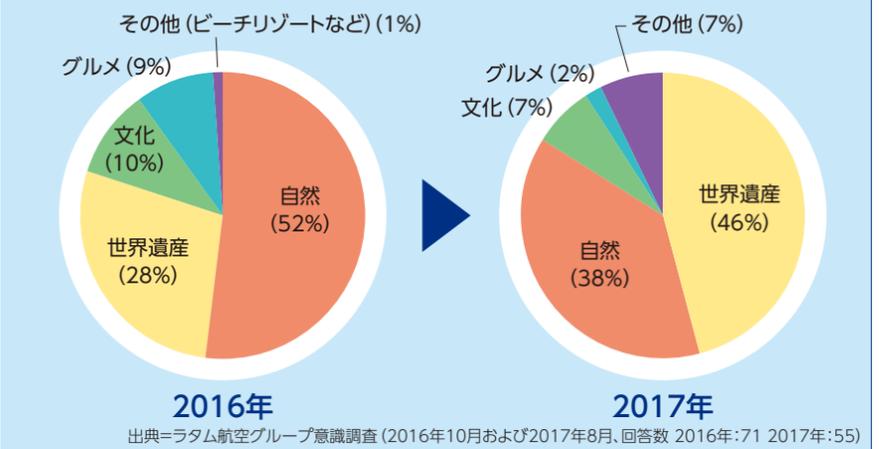
そして、今年の結果の大きな特徴が、昨年は4位以下だった「文化」(19%)が2位に浮上したことだ。これまでは主に南米の世界遺産や自然に注目が集まってきたが、今後は南米の文化を体験できる素材も盛り込むなど、商品内容をさらに充実させるといった対応がカギとなりそ

うだ。3位以下は「世界遺産」(18%)、「富裕層向けの情報」(17%)と続くが、上位4項目はパーセンテージに大きな差がない。全体を網羅した幅広い情報が求められることがわかる。

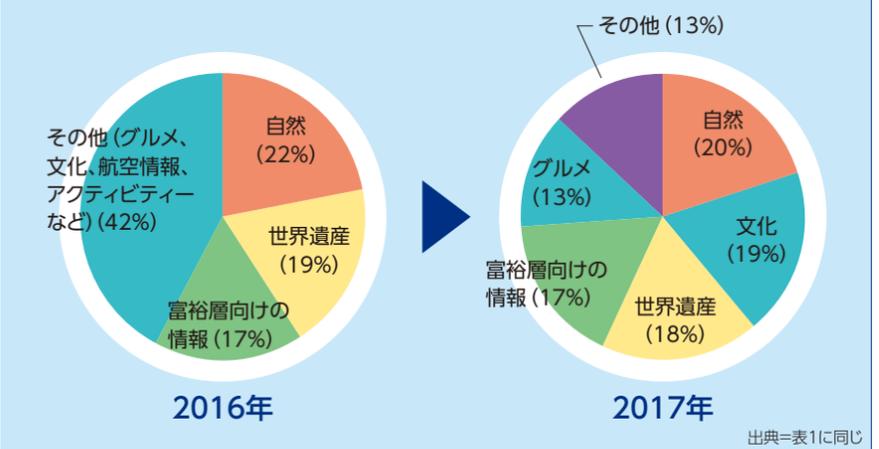
一方、旅行スタイルについての回答で最も多かったのは「団体ツアー」(64%)で、南米旅行は団体が中心であることがわかる。しかし「個人向けパッケージツアー」(29%)と「航空券の手配」(5%)を合わせると、3割超が個人で南米を訪れていることになる。団体向けや個人向けなど、多彩な商品を取り揃えることで、多様化する南米旅行需要を獲得するチャンスが生まれると言えるだろう。

また、「自然」を選んだ理由に「フォトジェニックであること」という回答もあった。日本人旅行者がSNSで旅行中に情報を発信したくなるようなパンフレットを構成することも、南米への旅行意欲をかきたてる有効な手法の1つとなりそう

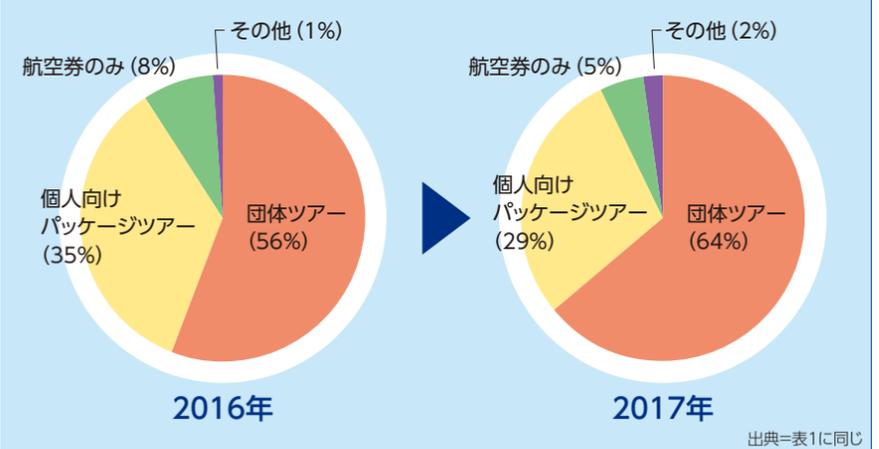
【表1】日本人旅行者が南米について一番興味を持つと思われるもの



【表2】旅行商品造成・販売にあたり一番欲しい情報



【表3】南米行きで最も多い旅行形態



ラティーノ Latino

客層や旅行スタイルの多様化に対応する商品を 中南米はさらなる掘り起こしが可能なエリア



カルロス氏

メディアへの露出増で 新たなエリアが伸長

2017年にラティーノが取り扱う方面で顕著な伸びを見せたのはキューバだった。こういった新たな動きが出始めているのが今年の中南米の特徴だ。

2015年にアメリカ合衆国がキューバの首都ハバナに大使館を設置し、2016年にはオバマ前大統領がキューバを訪問。同年9月には安倍晋三首相も日本の内閣総理大臣として初めてキューバを訪れるなど、キューバを巡る国際情勢は歴史的な転換点を迎えている。それに伴い、さまざまなメディアがこぞってキューバを取り上げた。

キューバの伸びについて、ラティーノの営業課長上村カルロス氏は「大きな話題となり、キューバの『行けない国』というイメージが薄れたことが大きい」という。さらに、メディアに登場するのは「古き良き時代のキューバの姿だが、アメリカとキューバの関係が新時代に入り、「古き良きキューバが姿を変える前に見ておきたい」という心理も働いているようだ。

こういったメディアの影響は大きく、爆発的な人気となったウユニ塩湖も人気に火を付けたのはテレビCMだった。メディア露出がきっかけとなり、商品化が実現したのだ。

中南米商品の購買層は若年層へ 南米へのルートは選択肢が豊富

かつてはマチュピチュに行こうとする、高度順応なども考慮して10日前後の旅程を組むのが主流だった。現在は医学的な裏付けに基づく高山病対策や宿泊施設の拡充などにより、8日間程度の商品も実現。マチュピチュ商品の購買層は時間に余裕のあるシニア層が多かったが、

短い旅程の商品ができたことで、OL2人組など若年層にも広がりを見せている。ただし、若年層は価格を重視する傾向があるため、偏りが出ないようにバランスをとるのが重要となりそう。

中南米は現在、北米やメキシコ経由はもちろん、ヨーロッパ経由や中東経由などルートの選択肢は豊富。商品を造成しやすい状況にある。複数の航空会社が競争することで、価格面での優位性も出てきた。

「第二のマチュピチュ」を探す 中南米専門店が注目するエリア

現在日本人旅客にとって人気のエリアは、ベストシーズンに限られている場所が多い。例えばウユニ塩湖は1~2月、パタゴニアは11~3月といった具合で、シーズンには予約が集中して航空座席、ホテルが取りにくくなる。そのため、ラティーノが旅行会社とともに取り組んでいるのは、「コンスタントに1年を通じて売れる商品の開発」(上村カルロス氏)だ。

現在ラティーノが注目しているのは、メキシコのすぐ南、アクセスの良いグアテマラにあるティカル遺跡やアティトラン湖だ。ティカル遺跡は標高が低く、健康面での心配はマチュピチュより少ない。アティトラン湖は湖の周囲にマヤ族の村

が点在し、先住民の文化に触れる機会も多い。カルロス氏は「きっかけさえあれば、第二のマチュピチュになる可能性は高い」と話す。

また、南米北部のコロンビアへの期待も大きい。「南米で最もアクセスの良い国」(カルロス氏)だけあって、毎年7000人前後の日本人旅客が訪れているが、カルロス氏は「もっと伸びてもよいエリアの1つ」と話す。コロンビアは国内線が充実しているため、移動がネックになる心配は少ない。太平洋とカリブ海に面しているうえ、アンデス山脈とジャングルを併せ持つ自然の多様性は魅力的だ。国としても観光促進に力を入れており、近年では治安を回復させているのも明るい材料といえる。

カリブ海諸国にも注目している。空路でつなぎにくいカリブ海の国々をマイアミ発着のクルーズで巡る旅はあるが、港町やビーチだけではない、それ以外の魅力も併せ持つカリブ海の島々について、カルロス氏は「まだまだ掘り起こしが可能なエリア」と表現する。

絶景が多く日本人好みのデスティネーションであるラテンアメリカ。ラティーノは今後も各国政府観光局や航空各社と共同でさまざまなプロモーションを行い、旅行会社とともに魅力的な商品づくりを進めていく考えだ。

アメリカン航空

American Airlines

アメリカン航空で行くラテンアメリカ

Network

充実のネットワークでより便利に

アメリカの航空会社で、ラテンアメリカへ最大のネットワークを提供するアメリカン航空。ダラスを中心に、ニューヨークやロサンゼルス、シカゴなど、アメリカ各地のハブ空港から、ラテンアメリカ各地へ数多くのフライトを運航する。

なかでもメキシコへは、メキシコシティやカンクンだけでなく、国内各地へ直行便を運航。グアテマラやコスタリカ、ベリーズなどの中米、南米のコロンビアやペルー、ブラジルやアルゼンチン、チリへのフライトも多く、スムーズに乗り継ぎできる点も強みだ。

ダラス空港なら乗り継ぎもスムーズ

「ITI (International to international) サービス」で、出発地で預けた手荷物をダラス空港で一旦受け取り、税関審



Carry E-Zで入国審査がスムーズ

査を受けることなく、そのまま目的地の空港で手荷物を受け取ることができる。

入国審査もスムーズ。「Carry E-Z(利用時間:8:00~18:00)」や「APCキオスク(自動入国審査端末)*」なら、機械での手続きが可能。APCキオスクは日本語表示の選択もできるので、安心だ。

国際線のフライトが発着する空港ターミナルも免税店やお土産店などのショップ、レストラン、空港ラウンジ「Admirals Club」など、施設が充実。乗り継ぎの時間も有効に過ごせる。

*ESTA取得後、米国入国が2回目以降の方が対象



Service

最新の機内サービスでより快適に

アメリカン航空は、すべての日本路線に最新の客室設備を搭載した機材を導入、快適なフライト環境を提供する。なかでも新たにスタートしたプレミアムエコノミーのサービスは、ワンランク上の旅にぜひ提案したい。

寝具にこだわり 「Casper」とコラボ

2017年12月より、寝具メーカー「Casper」社と共同で開発した寝具を導入。日本路線を含む長距離国際線と大陸横断路線のファーストクラス、ビジネスクラス、プレミアムエコノミーへの搭載を開始した。

寝具の開発にあたっては、機内での快適な睡眠を実現すべく研究を重ね、数々のテストを繰り返しながら高度の環境においても通気性を確保できるよう工夫。アメリカン航空のためだけの寝具を作り上げた。



Flagship™ビジネス

ワンランク上の快適 プレミアムエコノミー

2017年12月15日より、成田-ダラス、成田/羽田-ロサンゼルス線で利用可能となるプレミアムエコノミー。

広々とした足回りスペースと、幅広い革張りシートゆっったりとした空間。機内エンターテインメントは、11インチの個人モニターと、プレミアムエコ

ノミー専用のノイズ低減ヘッドフォンで楽しむことができる。事前予約可能なグレードアップした食事と飲み物、さらに専用のアメニティキットや優先チェックイン、優先手荷物タグ、優先搭乗など、ワンランク上の上質なサービスを体験したい。



「Flagship™ラウンジ」続々オープン

アメリカン航空の新しいプレミアムラウンジ「Flagship™ラウンジ」が続々とオープンしている。ニューヨーク(JFK)、シカゴ、マイアミに加え、今後はロサンゼルスとダラスにもオープン予定だ。

広々としたスペースを確保、シェフ考案の食事が楽しめるほか、カクテルバーやプレミアムワインテーブル、シャワールームなどを設け、フライト前の時間を快適に過ごせる。

「Flagship™ラウンジ」は、ワンワールド加盟航空会社の長距離国際線と大陸横断路線のファーストクラス、ビジネスクラスを利用する乗客、または長距離国際線利用のマイレージプログラム「AAAdvantage®」の上級会員が対象。ワンワールドのエメラルド/サファイア会員ならワンワールド加盟航空会社の便の利用であれば、搭乗クラスに関わらず利用できる。



ニューヨーク(JFK)のFlagship™ラウンジ

出発前にFlagship™ファーストダイニング

さらに、長距離国際線または大陸横断線のFlagship™ファーストの搭乗者は、新Flagship™ラウンジ内に新設されたFlagship™ファーストダイニングを利用できる。

Flagship™ファーストダイニングは、出発前に好きなコース料理を無料で味わえる、Flagship™ファーストの乗客だけの特別なサービス。出発前に食事を取ることで、機内ですぐに睡眠できる。それ



ぞれの土地柄に合わせて考案されたメニューが堪能できるのは、他の米系航空会社にはないアメリカン航空独自のサービスだ。

Flagship™ファーストダイニングは、現在ニューヨーク(JFK)とマイアミで提供、今後ロサンゼルス、ダラスにも順次オープン予定だ。

American Airlines 

時空を超えたミステリーに浸る。

アメリカン航空、
北米・中南米320都市にアクセス。
——あなたが主役の旅へ。